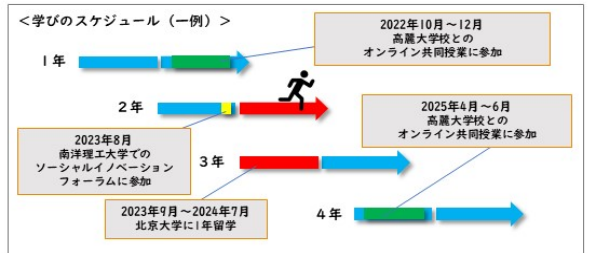
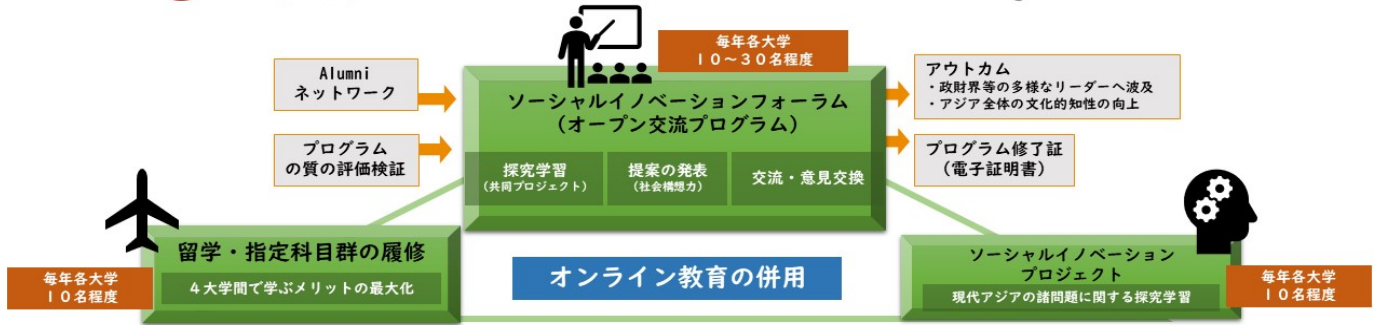


大学の世界展開力強化事業(2021年度選定) 早稲田大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2021年度・(タイプA①))

文明間対話促進のための文化的知性を備えたソーシャルイノベーター共同育成プログラム

【交流推進事業の概要】



【交流プログラムの概要】

本事業では、現代アジアにおける諸問題解決をテーマとして、早稲田大学(日本)、北京大学(中国)、高麗大学校(韓国)、南洋理工大学(シンガポール)の4大学が手を取り合い、①留学およびプログラム指定科目群の履修、②学生が個人でテーマを定めて取り組む探究学習としての「ソーシャルイノベーションプロジェクト」、③学生たちが実際に集うオープン交流プログラム「ソーシャルイノベーションフォーラム」を共軸として展開する。

【本事業で養成する人材像】

現代アジア社会における諸問題やその歴史的背景について深い関心と知識を有するだけでなく、自ら課題設定をしたうえでその解決に向けて実行が出来る人材を育成する。ポストコロナ時代において育成・輩出すべき社会変革を起こすことができる人材(ソーシャルイノベーター)に求められる能力は「文化的知性」である。これは異なる文化的地域の他の人々と相互作用する際の適応能力を指し、具体的には、異文化理解力、文明間対話を促進する受容力や、新たな仕組み提案・主導する力であると言える。4大学間での学びを通して文化的知性を備えたソーシャルイノベーターを輩出する。

【本事業の特徴】

本事業では、留学とオンライン交流による深いレベルでの多文化経験を前提としながら、事業名にある「文明間対話」の視点と手法を用いることで複雑な社会課題に連携して取り組み、オープンイノベーションを目標とした新しい学習カリキュラムを導入する。また、「ソーシャルイノベーションフォーラム」を通して、参加学生による教育成果の可視化・公開も視野に入れている。

【交流予定人数】

		2021	2022	2023	2024	2025
派遣	実際に渡航する学生	0	20	20	30	30
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	20	25	35	45
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	10	10	10	10
受入	実際に渡航する学生	0	10	10	10	10
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	30	40	50	60	70
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	10	10	10	10

1. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【早稲田大学】

【事業の名称】(採択年度 令和3年度)

文明間対話促進のための文化的知性を備えたソーシャルイノベーター共同育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



- 令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況と各国の入国制限措置に鑑み、渡航を伴う形での学生交流は行わなかった。
- 本事業のキックオフを記念して早稲田大学主催の「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」をオンラインで実施し、協力3大学(北京大学・高麗大学校・南洋理工大学)の学生・教職員はじめ61名(事前登録97名)が参加した。本オンラインシンポジウムでは、事業実施主管学部である早稲田大学社会科学部の教員4名によるプレゼンテーションの他、参加者とのディスカッション等、双方向性をもったプログラムを実施した。
- 令和4年8月・9月からの留学生選考を進め、プログラムの理念とミッションを理解した派遣予定者8名、受入予定者4名を選出した。

← オンラインシンポジウムの様子)

(← 本事業のHP↓)

交流プログラムにおける学生のモビリティ

(← 本事業の掲出素材→)

○ 日本人学生の派遣

- 令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況と各国の入国制限措置に鑑み、渡航を伴う形での学生派遣は行わなかった。一方で、令和4年度からの実渡航を伴う学生交流開始に向け、本事業推進を目的としたHPと掲出素材の作成を進め、優秀な学生確保の準備を行った。
- 早稲田大学主催の「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」をオンラインで実施し、本学から41名の学生が参加した。



○ 外国人留学生の受入

- 令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況と各国の入国制限措置に鑑み、渡航を伴う形での学生受入は行わなかった。
- 早稲田大学主催の「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」をオンラインで実施し、9名の協定大学学生が参加した。

(※) ()内は本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム参加人数(「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」)→

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	10	0 (41)※
学生の受入	30	0 (9)※

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 事業実施主管学部である早稲田大学社会科学部では、過去に大学の世界展開力強化事業のプログラムコーディネーション経験のある専任教員の採用を進めた。関連して、令和4年度からの実際の学生交流に向けて、カリキュラムに紐づいたキャンパスアジアコア科目の設置や教育体系の構築を進めた。
- 定期的に4大学でのオンライン協議の場を設け、学生の中長期派遣交流だけでは終わらない本事業ならではの共同教育モデルと教育手法の検討を始めた。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○ 外国人学生の受入のための環境整備

- 本事業専属の英語能力に長けた嘱託職員を雇用し、学生の本属校と密な連携をとりながら学生の受入れをサポートしている。また、本学では、全学の留学生のデータを留学センターが一元管理しており、在留資格の変更や期間更新等のサポートは留学センターが統括しつつキャンパス毎に配置された担当職員がサポートを行っている。入学時には日英での外国人学生対象のオリエンテーションを開催し、本学での学修や生活全般の情報提供を行っている。在学中に成績不振に陥った学生については個別に呼び出し、適切な学修指導を行い、不法滞在者を出さない措置を講じている。

○ 日本人学生の派遣のための環境整備

- 複数大学で派遣留學業務の経験がある嘱託職員を雇用している。本学では、海外渡航する全学生に対して危機管理オリエンテーションへの参加を義務付けている。ビザの取得や現地での留學生活に伴う実務面に関しても、手厚いサポート体制を構築している。海外渡航の際には、包括契約による海外旅行保険契約を義務付けており、24時間対応のサポートデスク(日・英)で緊急事態へ対応が可能である。学生は、留学センター内 Waseda Global Gate を通じて留学国・留学先大学の情報の入手およびアドバイジングを受けることができる。プログラムの参加にあたっては、学生所属学部にて留学担当職員や教員が単位の取り扱い、履修モデル、修了要件等の事項について、事前のオリエンテーションを実施する。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- 令和4年度からの実渡航を伴う学生交流開始に向け、本事業推進を目的としたHP(日英)と掲出素材の作成を進め、コンテンツの充実化を図っている。今後本HPでは、優秀な学生の確保やプログラム実績の公開だけでなく、本事業に参加した学生の実績や成果を公開することも予定している。(https://www.waseda.jp/campusasia-mode3/))
- 早稲田大学主催の「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」をオンラインで実施し、本学の教育・研究や事業概要についてを海外大学関係者に発信した。

■ グッドプラクティス等

- 本事業のキックオフを記念して実施した早稲田大学主催の「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」では、事業実施主管学部である早稲田大学社会科学部の教員4名によるプレゼンテーションの他、参加者とのディスカッション等、双方向性をもったプログラムを実施した。本取り組みにより、今後展開するプログラムの趣旨や、4大学で育成するアジア社会に良き変革を起こすことができる人材の育成目標や理念を共同で確認する機会とすることができた。